

のびのびと七転び八起き

校長 藤原 恵美



夏休みにいろいろなことを経験して心も体も一回り成長した子どもたちが戻ってきて、学校はまた活気にあふれています。夏のお葉書をたくさんいただきました。センスと才能の豊かさに感心し、お家のみなさんの愛情を感じながら、一通一通楽しく読みました。旅行に行ったり、カブトムシの幼虫を育てたり、英語キャンプに参加したり、俳句を送ってくださった方もいらっしゃいました。私とはと、ゆっくりと展覧会に行くことができました。

そのうちの二つは絵本の作者についてのもので「おさるのジョージ展」と「かこさとし展」です。「おさるのジョージ展」は絵本創刊85周年を「かこさとし展」は生誕100年を記念する展覧会でした。「ひとまねこざる」は子どものころ大好きな絵本でした。「だるまちゃんとてんぐちゃん」が出版されたころ、絵本は卒業していましたが、10歳下の妹が「だるまちゃんとかみなりちゃん」が大好きで、せがまれて、読み聞かせをした記憶があります。

今回わかったことは、作者のハンスとマーグレット・レイ夫妻もかこさとしさんも戦争を生き延びた人たちであることです。レイ夫妻はナチスドイツのフランス侵攻直前に原画を含む最低限大事なもののだけ持って自転車でパリを脱出。ブラジルを経てアメリカへ移住。大変つらい経験をされたにちがいありません。しかし展示に「絵本は子どものためではなく、自分たちが『面白い』と思えるものを作った」とあり前向きに生きられたことを感じました。また上映されていたビデオで「ジョージはとっても知りたがりなの。その好奇心がトラブルを招くのだけど、自らの創意工夫で問題を解決するの。」と言っておられ、だから子どもたち（と昔の私）の心をつかんだのだと思いました。成長過程にある子どもたちは失敗をたくさんします。でも大丈夫、ちゃんと解決するからというメッセージが届くのでしょうか。



かこさとしさんは昭和20年に19歳。出征した同級生たちの多くを失いました。「自分は生き残り」というより「死に残り」という思いをもち、これから何をすればよいのか自問自答し、子どもたちのために役に立てないだろうかと思いに至ったそうです。会社員をしながらセツルメント（地域社会福祉活動）で子どもたちと向き合い、子どもたちから学び、絵本作家となりました。著書「未来のだるまちゃんへ」のなかで「はじめは考えなしにやったっていい。しくじることあるだろう。だけど、しまったと思ったら、次は考えろ。（中略）そうして、失敗を乗り越えてゆけるのが人間で、君もその一員なんだよ。僕はそう伝えたいのです。（中略）大人はあくまで裏方でね。あんまりあれこれ言わない方がいい。（中略）子どもたちも生きようとしている、その生きる力をどうかみくびらずに信じてやってほしい。」

すぐれた作品には作者の人生経験と哲学の裏打ちがあることを再認識すると共に、知りたがりな子どもたちが生き生きとしくじって、のびのびと育っていくのを見守る学校でありたいと思いました。

9月の行事予定

1日(火) 9月の会・午前授業
2日(水) 午前授業
3日(木) 午前授業
5日(土) 第2回初1学校説明会
9日(水) ～11日(金)

6年校外学習
10日(木) 5年まとめのテスト
14日(月) 5年ばら・ゆり組美術館見学(PM)
16日(水) 泉の会代表幹事会

21日(月) 敬老の日
22日(火) 国民の休日
23日(水) 秋分の日
24日(木) 午前授業
25日(金) 1～3年遠足
5年きく・ふじ組美術館見学(PM)
28日(月) 後期児童会立ち会い演説会
29日(火) 午前授業

※10月1日(木) 都民の日(休日)

成績について ～成長につなげるために～

教務主任 森 勇介

前期の締めくくりまで、残すところあと1か月となりました。子どもたちは日々の学習や生活の中で自らをふり返り、豊かに成長した姿を見せてくれています。

学校での学びにおける大きな価値は、友達と互いの考えや感性を響かせ合うことで、一人では到達できない深みへと高め合えることです。まさに、「知性を磨く」姿そのものです。本校では、学期末に自身の成長を実感するとともに、友達や日々の学びを支えてくださった方への「感謝の心」を育むことも大切にしています。



さて、10月にはご家庭へ「学習・生活の記録」をお渡しいたします。学校での学びの成果をお知らせする大切な資料ですが、私たちが一番に願っているのは、記載された評価や評定の「数字や記号」以上に、そこに至るまでの過程に目を向けていただくことです。

「ふり返り」は、自ら学ぶ力を育むための重要な土台となります。ご家庭で有意義なふり返りの時間を過ごしていただくために、以下の3つのポイントを参考にしてみてください。

1. まずは「自己評価票」で気持ちに寄り添う

「記録」を見る前に、まずはお子様自身がふり返った「自己評価票」を一緒にご覧ください。「ここをがんばったんだね」「こんな風に感じていたんだね」と、本人の達成感や思いをそのまま受け止め、分かち合うことが何よりの励みになるはずです。

2. 記号の数にとらわれず、客観的な成長の目安に

「観点別評価(◎○△)」は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に取り組む態度」という3つの視点から、お子様の学びの姿をとらえたものです。◎や○の数から機械的に評定が決まるわけではありません。数値だけにとらわれず、得意な部分やこれから伸ばしていきたい課題を客観的に捉える目安としてご活用ください。

3. 「次の一步」を前向きに話し合う

記録には学校や学年の目標も記載されています。前期のがんばりをしっかり認め評価した上で、「後期はどんなことに取り組んでみようか？」と、これからの目標や取り組み方を具体的に話し合う機会にしていいただければ前向きな力につながると思います。

◆ ご家庭での『ふり返り』が終わりましたら

お子様とお話し合いいただいた温かいメッセージやご感想を記録用紙にご記入(ペン書き・押印)の上、後期始業式にご提出をお願いいたします。担任も子どもたちの努力とご家庭での想いを受け止め、後期からの指導へとつないでまいります。

評価は決して他者と比較したり子どもを評価し切ったりするためのものではなく、一人ひとりの「知性を磨き、自ら学ぶ力」を育むための大切な土台です。ご家庭と学校が手を取り合い、子どもたちの次への挑戦を温かく応援していく機会となりますようお願いしております。



～夏のお便りから～

※文中の挿絵も児童からのお便りから抜粋しました

